



ぐんぐん伸びる朝顔さん。でも、僕のだけそんなに伸びていない…。

切るのはいそいそだけど、ぐんぐん伸びるならと摘芯することを決めたAさん。Aさんの朝顔さんは、小さなお部屋にいるときは、ねっこをぐんぐん伸ばして元気いっぱいだったのに、植え替えた後は、なかなかつるが伸びていきませんでした。そのことをAさんは、朝見では「俺のだけ小さい」「つぼみも出てないもん」とずっと心配をしていたのです。摘芯するときは、真剣です。大事なところを切るわけにはいきません。本葉の数を数えて、「ここだよ、ここでいいよね？」と念押しして切る姿がありました。そのおかげもあってか、9月にはぐんぐん伸びて、むらさきのきれいな花を咲かせました。押し花にしたり、色水を作ったり朝顔さんを一緒に楽しみました。



あさがおさんの「すごさ」に気づく

膨らんできた種。それを開いてみたBさん。「先生、種の中がね、なんか緑のものがつまっているよ。まだ、種が白くてね、爪でひっかいたら、中身が見えちゃったの」と小さな種を差し出して言いました。やっと膨らんできた実の中にいくつかの粒が入っていました。でもBさんの種は、まだ、しっかり固まらないうちに、取れてしまったのかもしれない。そんなBさんの言葉を聞いて、周りにいた友だちが「え、どれどれ?」「あ、なんかキャベツみたいなものがつまっている感じがするよ!」と声をかけます。翌日、Bさんの見つけた種の中の様子をみんなで見てみることにしました。

Bさんが見つけた種の様子のことを伝えると実際に自分の目でも「よおく見てみたい!」という気持ちになり、双眼実体顕微鏡を使ってみることにしました。

「なんだかぎゅっとつまっている感じがするよ!」

「ピーマンみたいなすごくつよい色をしているって思った。」

「双葉がつまっているんだとおもう。さいしょのはっぱのじゅんぴをしているとおもった。」

「芽を出そうとしている。芽がいっぱい種の中につまっていると おもったよ。」

「たねのかたいからでさ、じぶんのこと守っているんだとおもうよ。」

「はるまでこのまま待つんだよ。はるになったらすぐに芽を出そうとしているんだ!」
一粒の種から、朝顔さんの強さや次の「いのち」を守ろうとしていることを感じ取っている姿があります。



11月30日、気温がマイナス1度になりました。自分たちの朝顔さんともお別れが近づいていることを感じ取っていました。でも、できるだけのことをしたい。種が大きくなろうとしているから、その種が取れるまでは、土からは出したくない。寒いから、中に入れてあげたい。水じゃなくて、ぬるめのお湯をあげて朝顔さんを元気にしたい。そんな思いがみんなの中にもありました。すべての種を取った後、鉢から取り出したら、鉢の中いっばいに根っこを広げている朝顔さんに気づきました。「これだけねっこを伸ばして、きれいな花を咲かせていたんだね。」「ありがとう、あさがおさん」そんな思いがいっばいになった冬でした。